

教育支援センターボランティア活動

〇〇市教育支援センターにおいて、ピアっこ達がピアエデュケーションを行います。生徒さんに寄り添い、共に考え、分かち合いながらエクササイズを行うことで、生徒さんが「自分自身に素敵なおところがあるんだ!」と気づいたり、仲間から認められる嬉しさを感じたり、また、ライフライン（人生設計）で、自分自身を見つめる機会をつくる等、ピアっこがひとりひとりに寄り添ったボランティアを行います。

教育支援センターに登校する生徒さんはいろいろなことに悩み、思春期特有のデリケートな部分を持っている生徒さんが多いかと思えます。そこに寄り添うことは、大変なこともあると思いますが、年齢が近くピアカウンセリングの研修を受けているピアっこ達は、生徒さんを否定することなく上手に受け入れ、細かなところに配慮しながらエクササイズを進みます。そして、ピアっこ同志も声をかけあいながら、グループで接することで、緊張が和らぎ、全体が盛り上がるように、意識しています。



例えば、12月にクリスマスイベントのボランティア活動がありました。

ピアっこ達のボランティア活動も複数回になってきたこともあり、クリスマスらしい仮装をして、楽しそうに生徒さんが待つ会場に出向きました。

内容は、最初のあいさつ・自己紹介・ラポールのエクササイズでは、会えたことのうれしさを伝え、欲しいクリスマスプレゼントをお互いに話すことで、親近感を作りながらも当日の目的を伝えました。次のアイスブレイクでは「世界旅行に行こうよ。」を行うことで、みんなの緊張感がほぐれ、笑顔になっていきました。次に、クリスマスカード作り&交換をグループに分かれて行いました。カード作成は個人差がありましたが、ピアっこ達はひとりひとりが自由にカード作りに専念できるように寄り添ってました。そのカードを交換し、感想を言うことで、生徒さんは友達と自分の良さを感じていたようでした。最後のふりかえりでは、みんなと過ごせた時間が楽しかったことが伝わってきました。

活動後に教育支援センターの先生から、「仲たがいでいた生徒がいたので心配していたが、帰りは笑顔で仲良さそうに帰って行ったので安心した。」とコメントを頂きました。この活動は外部者（ピアっこ）が関わり、参加者みんなが楽しい時間を過ごすことで、ふさぎ込んでいた気持ちを明るくし、不得意に思っていた生徒同士の気持ちを和らげ、みんなが仲良くなれる場を提供することができるのだ、と改めて感じました。また、それに挑戦しているピアっこ達も回数を重ねるごとに成長していると実感しました。

